

「中島」の紹介

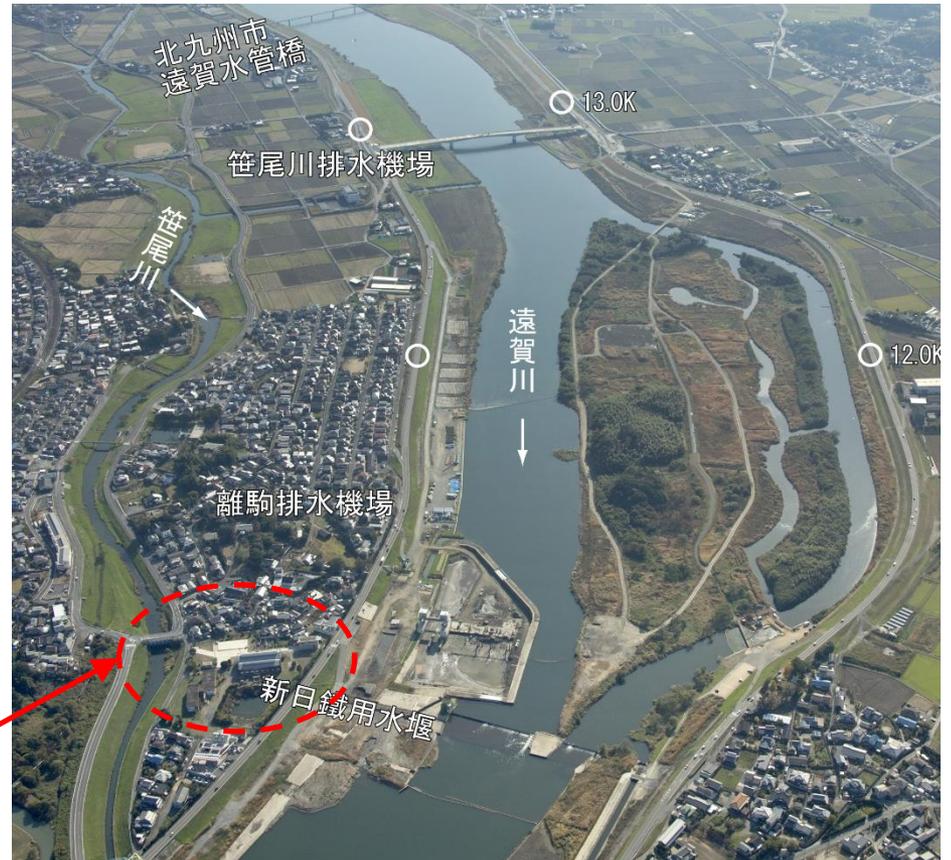
中島自然再生協議会(通称:タブリン)

平成29年中島池のカモ



中島は何処にあるの？

世界遺産の目の前です

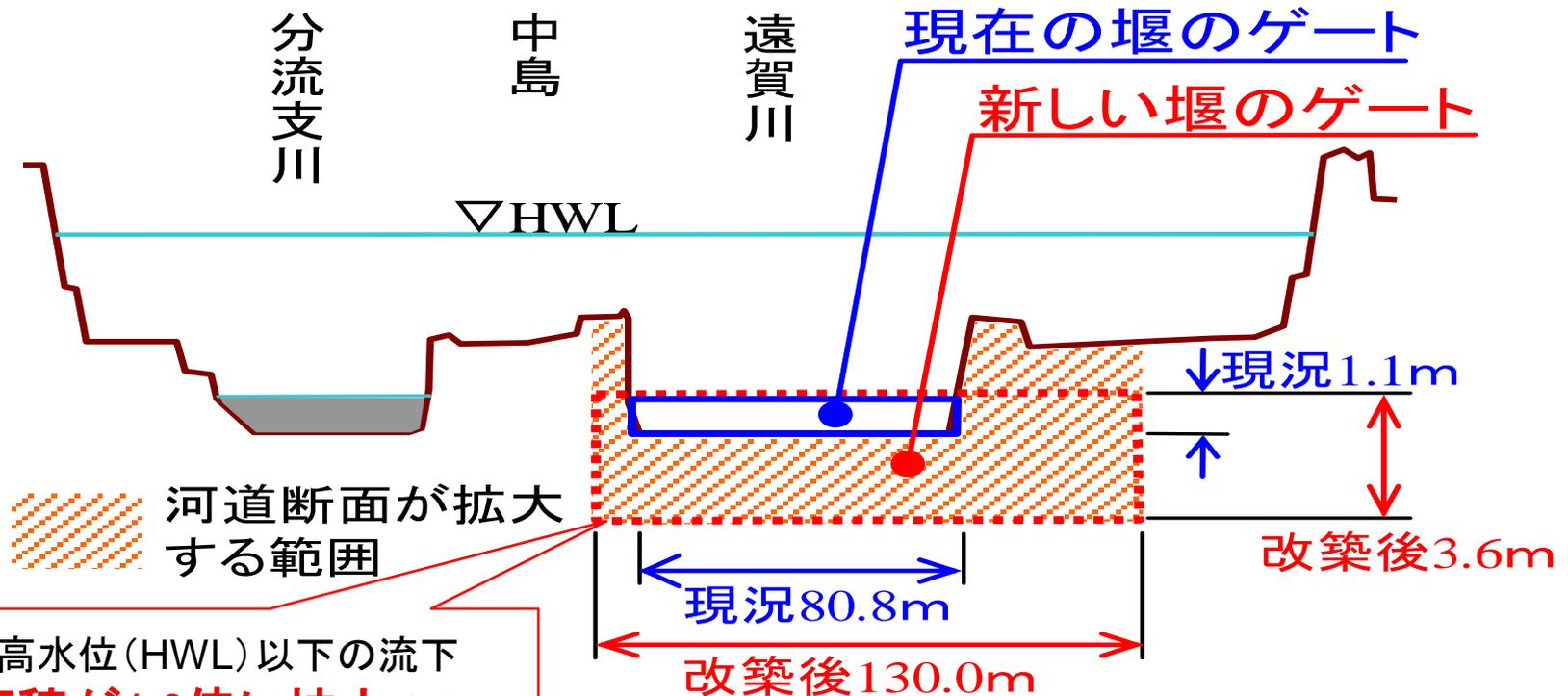


明治日本の産業革命遺産
遠賀川水源地ポンプ室

中間堰改築(平成22年度～平成30年度)

●中間堰改築の効果

中間堰の改築とあわせ、上下流の川底や堰の護岸の掘削を行うことにより、水が流れる断面積が約6割増加し洪水を安全に流す能力が大幅に改善されます。



水位が下がった状態

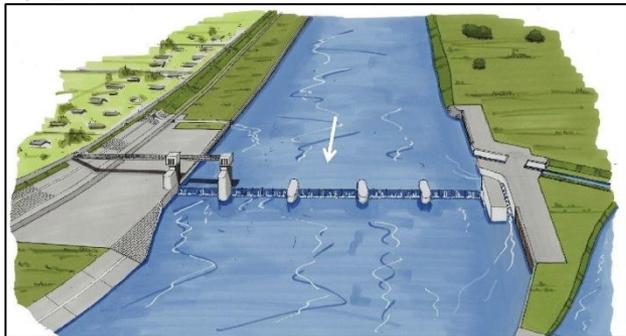


干ばつの状態



中間堰改築状況

完成イメージ図

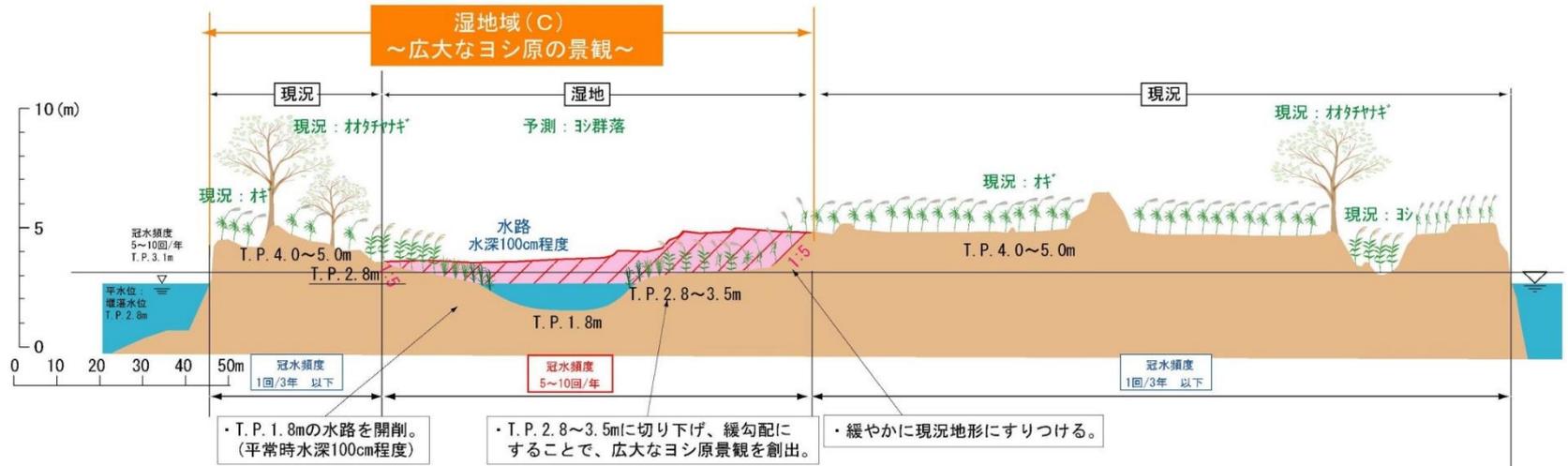


●現在の中間堰改築の状況(平成30年9月)

中島改良図

改良前

改良後



現況地盤高(T.P.+5.0m程度)より全体をT.P.+2.8~3.5mに切り下げ、緩傾斜にすることで、
広大なヨシ原景観を創出。T.P.+1.8mの水路を開削(平常時水深約100cm程度)

中島自然再生事業は中島の環境整備と保全を目標に、H16年～H26年度に8.7億円をかけ実施した。それ以降は河川維持の範囲で整備を実施しています。皆さん知っていますか？
中島は素敵な観光資源です。

中島自然再生事業 整備の状況(利活用)



中島自然再生の目標及び整備方針

自然再生目標

流域・河川の多様な景観を復元・創出し、自然と人々のふれあいを育む遠賀未来の川づくり
～遠賀流域の生き物のゆりかご・バイオダイバーシティー(Bio(生物が)－Diver(多様に住む)－City(まち))～

中島整備方針

失われた遠賀川流域・河川の原風景を中島で新たに創出

方針1：多様な景観の創出と生物の多様化

- 流域及び遠賀川で消失・減少した氾濫原風景（湿地）やクリーク・ワンド、池などの多様な水際環境を創出する。
- それらの環境に依存する生物の多様化を図る。

方針2：外来種対策

- 中島内部に浅場を設置し、在来の小型魚類や稚仔魚の外来魚からの逃避場を確保する。
- 湿潤環境を創出し、乾燥土壌に優先するセイタカアワダチソウなどの外来植生を効果的・効率的に管理する。

方針3：人と川との絆の再生（地域連携）

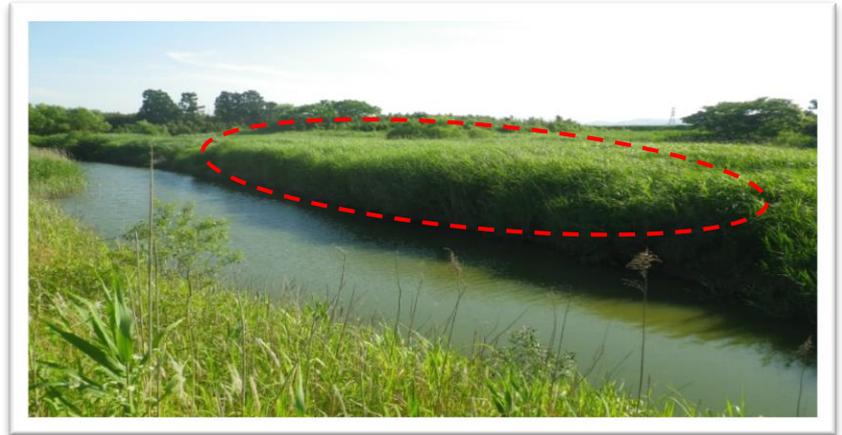
- 環境学習、地域コミュニティ形成に資する利活用方法についても配慮し、地域連携を促進する。

1) 植物

ヨシ群落



オギ群落



ウキヤガラーマコモ群落



オオタチヤナギ群落



確認された重要群落

ムクノキ、エノキ群集



タブノキ群落



2) 魚類 重要種および評価対象種の確認状況

重要種(環境省RL・福岡県RDB選定種)は、カネヒラ・ミナミメダカ等の6種が確認された。

これらの種はいずれも氾濫原的環境を生息場や繁殖場にご利用する種である。特にツチフキは、H28年度の確認個体数は中島全体で237個体、ゼゼラ220個体、ミナミメダカは631個体と多く、いずれの種も幼稚魚から成魚まで確認されていることから、中島内で再生産している可能性がある。また、カネヒラやバラタナゴ類等のタナゴ類も多数確認された。

各種の体長組成を以下に示す。

カネヒラ(県:準絶滅)



バラタナゴ属(国:絶滅 I A
県:絶滅 I B)



ゼゼラ(国:危惧 II・県:準危惧)



ツチフキ(国:危惧 I B・県:準危惧)



ギギ(県:準危惧)



ミナミメダカ(国:危惧Ⅱ・ 県:準危惧)



シマヒレヨシノボリ(国:準危惧)



(CR)絶滅危惧ⅠA:近い将来野生での絶滅が
極めて高い。

(EN)絶滅危惧ⅠB:ⅠA程ではないが危険性が高い。

(VU)絶滅危惧Ⅱ類:絶滅の危険性が増大している。

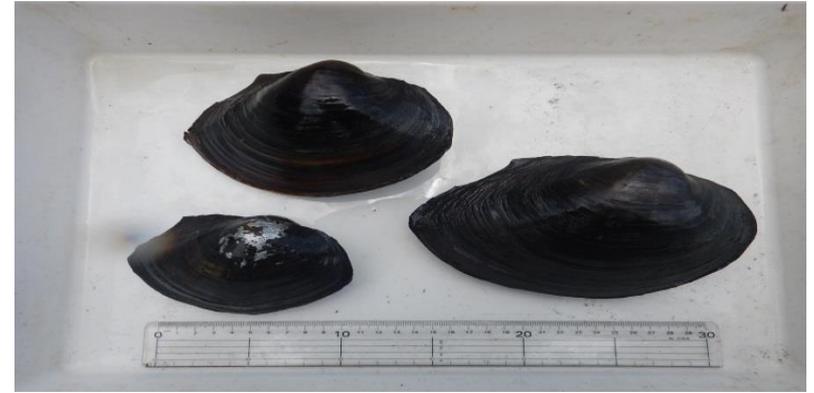
(NT)準絶滅 : 絶滅の危険性は少ないが
生息条件 により絶滅に。

3) 貝類他、底生動物

ヌマガイの稚貝の確認場所



ヌマガイ



コオイムシ



タイコウチ



4) 両生類・爬虫類

ウシガエル(特定外来生物)



ニホンスッポン



ヌマガエル



クサガメ



5) 哺乳類の生息状況

カメラ設置場所5箇所 調査日数:440日

【調査結果（確認種）】

- 調査の結果、3目4科7種の哺乳類を確認
- タヌキ、イノシシの確認が多い
- キツネの確認が少ない

目名	科名	種名	① 池水路	② タブ林	③ 竹林	④ オキ原	⑤ メダケ	合計
ウサギ	ウサギ	ノウサギ	8	4	54	75	26	167
ネコ	イヌ	タヌキ	2	306	221	15	3	547
		キツネ	—	7	—	1	—	8
		イタチ	—	11	8	1	—	20
		イタチ属	—	18	2	—	—	20
		アナグマ	—	17	10	—	3	30
ウシ	イノシシ	イノシシ	10	259	57	118	50	494
—	—	不明	1	117	76	45	43	282

※ 「不明」とは、野生哺乳類の可能性が高いが、同定に至らなかった場合を示す。

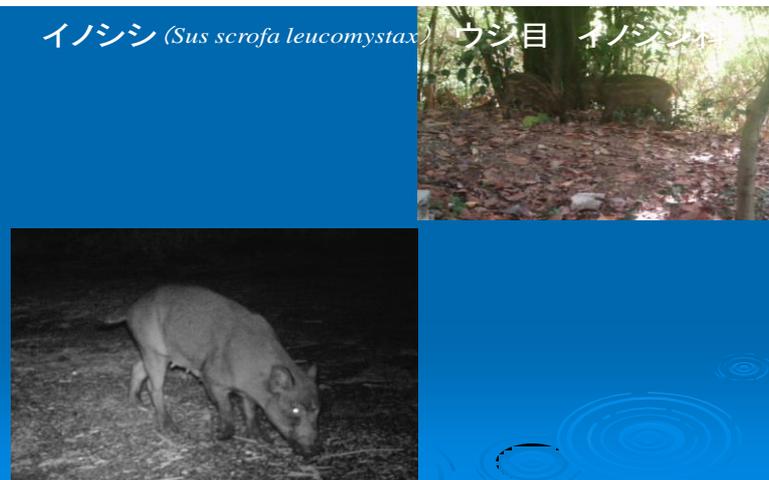
キツネ (*Vulpes vulpes japonica*) ネコ目 イヌ科



タヌキ (*Nyctereutes procyonoides viverrinus*) ネコ目 イヌ科



イノシシ (*Sus scrofa leucomystax*) ウシ目 イノシシ科



6) 中島自然再生協議会活動報告

水質検査

水質検査



竹炭作り

竹炭作り活動



秋の観察会

中島自然観察会



中島清掃・タケノコ掘り

中島清掃活動



H26・H27年ヒシ 駆除作業



H28年 .H29年中島池



ヌマガイとタナゴは共生の関係です。酸欠によるタナゴ保護の為の駆除作業。

何故ヒシが無くなったか？

H27年ヒシ駆除作業後、国土交通省により水路拡張作業が行われ水が流れるように成った。

年間の鳥類リスト(H.29-1)

平成29年度 遠賀川 中島鳥類モニタリング調査 結果一覧

NO	目名	科名	種名 <small>赤文字：重要種 青文字：外来種</small>	渡り区分	主な利用環境 の区分	確認状況																	
						平成29年度																	
						H25	H26	H27	H28	0	0	0	0	0	0	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
1	キジ目	キジ科	キジ			●	●	●	●											●			
2	カモ目	カモ科	オカヨシガモ			●	●	●													●	●	●
3	カモ目	カモ科	ヨシガモ			●	●	●												●			●
4	カモ目	カモ科	ヒドリガモ			●	●		●									●	●				
5	カモ目	カモ科	マガモ			●	●	●	●									●	●	●	●	●	●
6	カモ目	カモ科	カルガモ			●	●	●	●					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
7	カモ目	カモ科	オナガガモ				●													●			
8	カモ目	カモ科	シマアジ					●															
9	カモ目	カモ科	トモエガモ																				
10	カモ目	カモ科	コガモ				●														●	●	●
11	カモ目	カモ科	ホシハジロ			●																●	
12	カモ目	カモ科	キンクロハジロ			●	●															●	
13	カモ目	カモ科	スズガモ					●															
14	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ			●	●	●	●										●	●	●	●	●
15	カイツブリ目	カイツブリ科	カンムリカイツブリ			●		●														●	●
16	ハト目	ハト科	キジハト			●	●	●	●					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
17	カツオドリ目	ウ科	カワウ			●	●	●	●					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
18	ペリカン目	サギ科	アオサギ			●	●	●	●					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
19	ペリカン目	サギ科	ダイサギ			●	●	●	●					●	●	●			●	●	●	●	●
20	ペリカン目	サギ科	チュウサギ				●	●	●							●							
21	ペリカン目	サギ科	コサギ			●	●	●	●					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
22	ツル目	クイナ科	ヒクイナ						●											●			
23	ツル目	クイナ科	バン			●	●	●															
24	ツル目	クイナ科	オオバン			●	●	●	●									●	●	●	●	●	●
25	カッコウ目	カッコウ科	ホトギス				●	●	●											●			
26	チドリ目	チドリ科	コチドリ						●														
27	チドリ目	シギ科	タシギ						●														
28	チドリ目	シギ科	イソシギ			●	●	●												●			
29	チドリ目	カモメ科	セグロカモメ				●	●	●										●	●		●	●
30	タカ目	ミサゴ科	ミサゴ			●	●	●	●						●	●			●	●	●	●	●
31	タカ目	タカ科	トビ			●								●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
32	タカ目	タカ科	ハイタカ				●	●	●					●						●	●		
33	タカ目	タカ科	ノスリ			●	●																
34	ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ				●	●	●					●									
35	キツツキ目	キツツキ科	コゲラ			●	●	●	●														●

(水辺の鳥)

カルガモ(冬鳥)11月～3月



ヨシガモ、オオバン(冬鳥)11月～3月



コサギ(留鳥)



ミサゴ(留鳥)



(葦原 & 草原の鳥)

ホオジロ(留鳥)



オオジュリン(冬鳥)10月～3月



キジ(留鳥)



オオヨシキリ(夏鳥)4月～10月



(湿地の鳥)

オジロトウネン(旅鳥) 春:4月~5月。秋:8月~10月



クサシギ(旅鳥) 春:4月~5月。秋:8月~10月



イソシギ(留鳥)



コチドリ(夏鳥) 4月~9月



中島でお奨めのバードウォッチング

- 1) 基本的には1年中楽しめますが、冬鳥が楽しめるのは11月～3月です。上空をカモが乱舞します。
- 2) 鳥のサエズリが楽しめるのは、4月～6月
この時期は繁殖期です。メスを呼ぶ オスの大合唱で中島の中は大変賑やかです。
感性豊かな子供たちには是非聞かせてあげたい。
(声を掛けて下さい、喜んで御案内します)
- 3) 中島に入るときの注意点
1人で入らない、長袖、長ズボン着用、黒い服装は危険(スズメバチ)、冬以外は長靴を(マムシ)

問題点

中間堰前の水上スキー



対策 上流フェンス



下流フェンス



遠賀川、中島の環境保全について

1) 遠賀川利用のルール作りの作成

中間堰廻りは川幅が80Mから130Mに、水深が1.1Mから3.6Mに変更され川幅が広くなり流れが緩やかになった水面に多くの水鳥が羽を休めています。しかし、この水面に水上スキーを楽しむ人が現れました。

この場所は、「世界文化遺産」の取水場です。この場所より製鉄所の工業用水と北九州市民の飲み水、完成後は中間市民の飲み水もこの場所より採取されます。水上スキーの騒音や油漏れ、波による釣りボートの転倒等考えると、何らかの規制が必要かと思えます。(水上バイクは自分達でルールを決めて楽しんでいきます。水上スキーを楽しむ人達も住み分けをお願いします)

2) 中間堰前の上下流ゴミフェンス設置

工事完了後も10月～5月の間は設置して欲しい。

備考

- 1) 江戸時代初期(1660年)東流が本流後も頻繁に洪水を起こすので中島の東側を直線的に掘削。これにより現状の中島の原型が出来た。周囲:2.5km、面積:約30ha
長さ1100m x 幅300m (ヤフオクドーム 4個分)
- 2) 中島で確認されている生き物は、魚類・植物・両生類・爬虫類・哺乳類・水生昆虫・鳥類等1179種、遠賀川全体の1/3です。(遠賀川河川事務所・福大・福教大・九大・熊本大などのモニタリングによる)
- 3) 国土交通省では中島の環境整備と保全を目標に、H,16年度～H,26年度に8.7億円をかけ中島自然再生事業を実施した。自然再生事業としては事業期間・費用は上記の通りH26年度 に完了し、それ以降は河川維持の範囲で整備を実施しています。
- 4) **現状の中島は自然のビオトープです。地理的には90%が中間市です。国土交通省が中間市にビオトープをプレゼントした様な物です。(響灘ビオトープの年間来訪者約2万人です) 中間市の関係者及び市民も中島の素晴らしさに気付いていません、非常にもったいない。**
- 5) 現在中島研究会は、産、学、官、民で行われていますが、中間市は参加していません、是非参加をお願いしたいところです。
- 6) 中島研究会:産・学・官・民で構成する交流会(H.23年～1回)中島の自然再生をテーマにした勉強会です。(民:タブリン)(産:西日本技術開発・八千代エンジニアリング)
- 7) 鳥類の調査はH,27年3月から毎月2～3回行っています。
- 8) 平成30年3月12日中島前で鮭の放流を行った。(タブリンの恒例イベントにしたい)

おわり

ご清聴有難うございました